

平成 21 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

[分 類] 普及技術

[成果名] ハクサイベと病防除にレーバフロアブルが有効である

[要 約] ハクサイベと病防除にレーバフロアブルの 2,000 倍液を散布する。本剤は新規系統の殺菌剤である。

[担 当] 野菜花き試験場佐久支場、環境部

[部 会] 病虫部会

1 背景・ねらい

ハクサイベと病は生産現場では常発する重要病害である。本病を防除するため効果の高い薬剤を選定するとともに、はくさいに対する薬害の有無を検討する。試験は平成 16 年および 17 年に実施し、平成 21 年 6 月に農薬登録されたため、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) ハクサイベと病の防除に、レーバフロアブルの 2,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

レーバフロアブル

[一般名及び成分含有量] マンジプロパミド 23.3%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] A 類

[対象作物に対する適用登録状況（平成 21 年 9 月 24 日現在 JPP ネット確認）]

作物名	適用病害名	希釈倍率	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法	マンジプロパミドを含む農薬の総使用回数
はくさい	べと病	2,000	100 ~ 300 L /10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内

本試験は純粋に殺菌剤の効果を判定する目的のため、また、適用登録内容が決定される以前に実施したため、散布回数は適用登録の回数を超えた。

3 利用上の留意点

(1) 本剤は、新しい作用を有する新規の殺菌成分であるが、耐性菌の出現を防ぐため、なるべく連用を避け、作用機作の異なる薬剤とのローテーション散布を心がける。

(2) 散布は、結球始期から予防的に実施する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

レーバフロアブルのハクサイベと病に対する防除効果およびはくさいに対する薬害について、平成 16 年および平成 17 年に野菜花き試験場佐久支場で、平成 16 年に病害虫土壌肥料部で試験した。平成 16 年の佐久支場では、多発条件下での試験となった。レーバフロアブルの 2,000 倍液は対照のフェスティバル M 水和剤と比較して同等の高い防除効果であった（表 1）。平成 16 年の野菜花き試験場では中発生条件下での試験となった。レーバフロアブルの 2,000 倍液は無処理

と比較して高い防除効果であった(表2)。平成17年の佐久支場では、多発条件下での試験となった。レーバフロアブルの2,000倍液は無処理と比較して高い防除効果であった(表3)。いずれの試験においても薬害は認められなかった。

表1 ハクサイベと病に対するレーバフロアブルの防除効果(平成16年、佐久支場)

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
レーバフロアブル	2,000	20.0	35.0	13.4	85.4	なし
フェスティバルM水和剤	1,000	20.0	28.3	9.4	89.7	なし
無処理	-	20.0	96.7	91.7		

値は3反復の平均値

試験場所：小諸市山浦 佐久支場内圃場 発生状況：多発生 品種：優黄
 定植：8月24日 栽植距離：畦幅45cm、株間50cm 区制・面積：1区10.1m² 50株/区 3連制
 処理方法：9月15日(結球初期、発生無し)、28日および10月5日の3回、所定量の薬液(アイヤーの10,000倍加用)を背負式動力噴霧器を用いて10a当たり250リットル散布した。
 調査方法：10月16日(最終散布11日後、収穫期)に、各区20株について発病の有無および発病程度を調査した。
 発病指数 0：発病を認めない 1：一部の外葉に発病
 2：大部分の外葉に発病 3：外葉と結球葉に発病
 発病度 = ((発病指数 × 株数) / (調査株数 × 3)) × 100
 防除価 = 100 - ((処理区発病度 / 無処理区発病度) × 100)

表2 ハクサイベと病に対するレーバフロアブルの防除効果(平成16年、野菜花き試)

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
レーバフロアブル	2,000	15.0	22.2	8.9	82.3	なし
無処理	-	15.0	88.9	50.4		

値は3反復の平均値

試験場所：長野市松代町野菜花き試験場 場内圃場 発生状況：中発生 品種：優黄
 定植：9月10日 栽植距離：畦幅50cm、株間45cm 区制・面積：1区11.25m² 50株/区 3連制
 処理方法：10月8日、15日および22日の3回、所定量の薬液(アイヤーの10,000倍加用)を背負式動力噴霧器を用いて10a当たり275リットル散布した。
 調査方法：10月29日(収穫期)に、各区15株について発病の有無および発病程度を調査し、発病度、防除価を算出した(表1参照)。

表3 ハクサイベと病に対するレーバフロアブルの防除効果(平成17年、佐久支場)

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
レーバフロアブル	2,000	30.0	20.0	11.9	82.2	なし
無処理	-	30.0	94.4	66.7		

値は3反復の平均値

試験場所：小諸市山浦 佐久支場内圃場 発生状況：多発生 品種：優黄
 定植：8月15日 栽植距離：畦幅50cm、株間45cm 区制・面積：1区16.2m² 72株/区 3連制
 処理方法：9月8日(結球前、発生無し)、14日、21日および28日の4回、所定量の薬液(S/ハッテンの10,000倍加用)を背負式動力噴霧器を用いて10a当たり250リットル散布した。
 調査方法：10月6日(最終散布8日後、収穫期)に、各区30株について発病の有無および発病程度を調査し、発病度、防除価を算出した(表1参照)

6 特記事項

[公開]制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

東信地域の作物に対する病害虫防除試験(佐久支場)、平成16、17年度(2004、2005年度)、
 県単素材開発

新農薬の効果検定と実用化(環境部)、平成16年度(2004年度)、民間受託